

◆新疆、チベットなど中国辺境地域における英国の安全保障政策の実態

中国と現代世界 デジタル・アーカイブ 中国および辺境地域関連 インド省・ビルマ省文書集

China and the Modern World: Diplomacy and Political Secrets 1869-1950

China and the Modern World シリーズの **Diplomacy and Political Secrets 1869-1950** は、大英図書館の所蔵する旧インド省文書のうち、中国および辺境地域に関する政治・機密部門、ビルマ省、軍事部門関係の文書 4,200 点以上をデジタル化したものです。英領インドによる中国辺境地域（新疆、チベット、雲南）の安全保障政策の実態をさぐるとともに、インド省からみた 20 世紀中国の激動時代、第二次大戦中の中英関係などにも光を当てるものです。

収録される文書は、報告書、メモ、通知文書、パンフレットおよび公式出版物、諜報記録、地図、書籍などです。英領インドの安全保障上の懸念から、国境を接する中国の辺境地域は戦略上重視されており、新疆、チベット、および雲南省に関連した大量の史料がインド省の政治機密部や軍事部、およびビルマ省に収集されております。また、1910 年以降の様々な局面における中国の動向に対するインド省の関心や、第二次大戦中の中国とイギリスの協力を示すとともに、中国、インド、イギリス、チベット、新疆、ビルマ、ロシア（のちのソビエト連邦）、パキスタンや他のいくつかの中央アジア諸国を含む国境紛争および交渉についての公式文書も含まれております。



**大英図書館に所蔵される旧インド省文書の
チベットなど中国辺境地域に関する史料 20 万ページ超を収録**



FTE	<5,000	<15,000	<30,000	30,001+
Diplomacy and Political Secrets 1869-1950 買い切り価格	価格の詳細お問い合わせは弊社まで			

※年間管理費(ホスティング・フィー)は不要です。

※記載の価格は参考価格になります。正式な見積価格は最寄りの弊社営業員に別途ご用命ください。

無料トライアル承ります!! 詳細は弊社までお申し付けください

日本指定代理店 **極東書店**

FAR EASTERN BOOKSELLERS
KYOKUTO SHOTEN LTD

〒101-8672 東京都千代田区神田三崎町 2-7-10 帝都三崎町ビル
〒600-8357 京都市下京区柿本町 579 五条堀川ビル
〒810-0073 福岡市中央区舞鶴 1-3-14 小榎ビル

03(3265)7531 FAX (3556)3761
075(353)2093 FAX (353)2096
092(751)6956 FAX (741)0821

URL: <https://www.kyokuto-bk.co.jp>

E-mail: info@kyokuto-bk.co.jp



インド省文書を通して見る 外交官、軍人、政治家、探検家、パンディットらの諜報戦

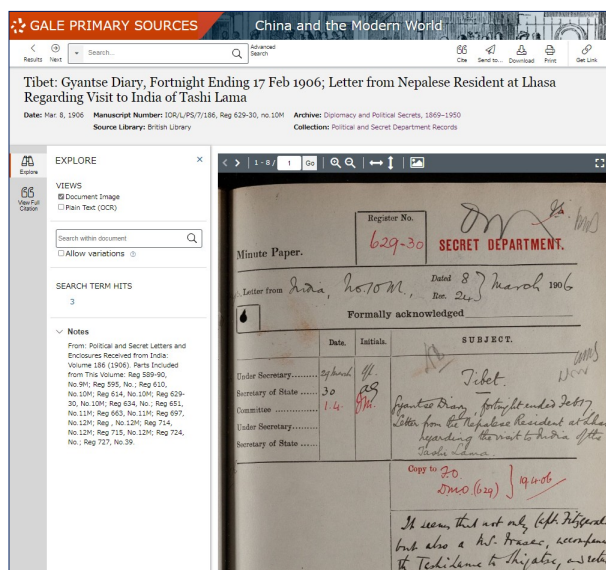


ムガル帝国滅亡後に施行された 1858 年インド統治法により東インド会社は廃止され、インドはイギリス政府の直接統治下に置かれ、植民地経営は新設されたインド省に継承されました。イギリスは大英帝国繁栄の礎として、植民地インドの維持と防衛に最大限の人的・経済的・軍事的資源を投入しました。当時、ロシアは中央アジアを支配下に収め、インド北西部への進出の機会を窺っていました。イギリスは 1880 年代にビルマ全土を英領インドに併合、インドの準州とします。これによりインドはインドシナを支配域に収めるフランスとも対峙するようになりました。

この国際関係の中で、イギリスは死活的に重要な植民地インドの周辺地域に緩衝地帯を設けるべく、勢力圏の拡大を試みました。インド周辺地域は、新疆からチベットを経て雲南に到るまで、大半は中国の辺境地域です。この地域は 19 世紀後半、イスラーム教徒が反乱を起こすなど、政情が不安定になる中で、ヨーロッパ列強は介入の機会を伺っていました。各国から送り込まれた人々はこれらの辺境地域に潜入し、政情を探りました。こうして天山山脈、崑崙山脈、カラコルム山脈、ヒマラヤ山脈の高峰に抱かれた秘境が、俄かに諜報と情報戦が展開する国際政治・外交の最前線となったのです。また、この時代は、新疆（西域）やチベットの秘境を目指して各国が探検隊を派遣、遺跡の発掘を巡り、国際政治とは別次元での競争が繰り広げられました。しかし、国際政治の諜報活動と学術的な調査活動は無関係であったわけではなく、探検を通じて地図の空白地帯を地図化するという学術的作業は諜報活動を行なう上で不可欠の役割を担いました。

これらの探検や学術調査を支援したのが王立地理学会で、この学会は学術支援に止まらず、グレート・ゲームの立役者で、イギリスのチベット侵攻を指揮したフランシス・ヤングハズバンドが会長を歴任したことにも示されている通り、大英帝国の外交・安全保障に深く関与しました。また、インド各地の測量を行っていた英インド政庁の測量局は、土地勘があり、現地語に通じた現地の人々を密偵（パンディット）として雇用し、商人や巡礼者に変装させて、辺境地域の測量に当たらせました。さらに、イギリスやロシアは現地の長老（アクサカル）を協力者として、その人脈を活用し、他国の外交官や探検家の監視に当たらせました。インドと中国の境界を舞台とする諜報活動は、イギリス、ロシア、フランスの外交官、軍人、中国の政治家、官僚、各国の探検家やプラントハンター、大国が雇ったパンディットやアクサカルら、多種多様な人物によって繰り広げられました。

本アーカイブはインド省文書を通して、新疆、チベット、雲南、ビルマにおける大国の諜報活動、これらの地域の情勢、探検家による遺跡発掘・調査活動を明らかにするとともに、中印国境紛争、新疆ウイグル自治区のウイグル族による独立運動、チベットにおける民主化運動等、現在に至るも根本的解決を見ることなく、火種がくすぶる諸問題の種が撒かれた歴史的経緯、さらには、王立地理学会や王立アジア協会などの学術団体とイギリスの外交・安全保障政策との関わりをも明らかにします。新疆、チベット、雲南、ビルマ地域の近代史、中国近代史、中央アジア近代史、インド近代史から大英帝国史、西域探検史、チベット探検史、外交史、国際関係史、軍事史まで、関連領域が非常に広いコレクションです。



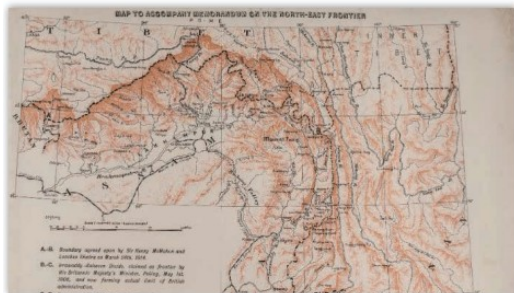
新疆・東トルキスタン

古来、西域と呼ばれた中央アジアはトルコ系民族が多いことからトルキスタンとも呼ばれていました。パミール高原を境に東西トルキスタンに分かれ、そのうち東トルキstanは18世紀に清の統治下に置かれ、新疆と呼ばれるようになりました。1860年代にはコーカンド・ハン国の軍人ヤクブ・ベクがカシュガルに侵攻し、独立政権を樹立しますが、陝甘総督の左宗棠がこれを破り、清は新疆の治安を回復、新疆省として清朝行政区の中で再編しました。19世紀末に新疆は列強の領土的関心を引きます。ロシアとイギリスがカシュガルに領事館を設置、ペトロフスキーとジョージ・マカートニーがグレート・ゲームで鎬を削りました。中華民国時代は、不安定な国内政治とロシア革命による動乱の中にあって楊增新の巧みな政治力と外交術により、新疆は平和を維持しますが、1920年代末の楊暗殺後は政治的に不安定になりました。1930年代には再三にわたりイスラーム教徒が反乱を起こし、1940年代には一時期、イスラーム教徒により東トルキスタン共和国が建国されました。中華人民共和国建国後に人民解放軍が新疆に入り制圧、以後新疆ウイグル自治区として現在に至っています。新疆では各国の探検家が発掘競争を繰り広げました。古代インド文書を手に入れたハミルトン・パウアー、ニヤ遺跡発掘のオーレル・スタイン、楼蘭の古都とロプ・ノールを発見したスヴェン・ヘディン、トルファン発掘のアルベルト・グリュンヴェーデルとアルベルト・フォン・ル・コック、ヤクブ・ベク統治下のヤルカンドに派遣されたダグラス・フォーサイス使節団、大谷光瑞らの西本願寺探検隊ら、各国の探検、発掘活動は諜報活動と深く関わりながら展開しました。



チベット

18世紀以降チベットは清朝の保護下に置かれ、駐藏大臣がラサに駐在し内政に影響力を及ぼしました。イギリスは19世紀初頭、チベット近隣のネパール、シッキム両王国を保護国化し、チベットを勢力圏に置くことを図ります。イギリスの脅威を前にチベットは清の威信が低下する中、大国ロシアに接近、友好関係を築きます。これを警戒したイギリスは、チベットとの外交・通商交渉が物別れに終わると、1904年フランシス・ヤングハズバンド率いる軍がラサへの軍事侵攻を強行、ラサ条約を締結し経済的権益を確保しました。清朝も趙爾豊率いる軍隊が1910年にラサに入城するも、辛亥革命による清朝崩壊により軍は駆逐され、1913年チベットは独立を宣言しました。翌年、チベットの地位確認のために英インド政庁、中華民国、チベット代表が会談したシムラ会議では、チベットの自治が確認され、イギリスに有利な形で英領インドとチベット間の国境が画定されましたが（マクマホン・ライン）、中国は調印を拒否、将来に禍根を残します。イギリス全権代表ヘンリー・マクマホンは2年後、パレスチナのアラブ人居住区に関するフサイン＝マクマホン協定を結び、パレスチナ問題の種を蒔くこととなりますが、シムラ会議によって撒かれた種は1960年代に中印国境紛争として表面化します。シムラ会議後、チベットはイギリスの影響下に近代化を進めますが、これにはダライ・ラマ13世の相談役として助言を行なった外交官チャールズ・ベルの果たした役割が無視できません。しかし、この関係は中華人民共和国建国後、人民解放軍がラサに入城するとともに終焉を迎えました。19世紀以来、謎に包まれたチベットはヨーロッパ人の想像力を掻き立て、多くの探検家がラサを目指してチベットに潜入しました。しかし、チベットは門戸を閉ざし、ウィリアム・ロックヒル、アニー・テイラー、スヴェン・ヘディン、ヘンリー・サヴェッジ・ランドーら、多くの欧米探検家はラサを目指しながらも目的を果たすことができませんでした。その後、アメリカ人のウィリアム・モンゴメリー・マクバガンがラサ潜入を果たし、ダライ・ラマに謁見、アレクサンドラ・ダヴィッド＝ネルは白人女性として初めてラサ入りに成功しました。また、仏教学者の河口慧海はすでに1901年に中国人と偽ってラサに密入国し、

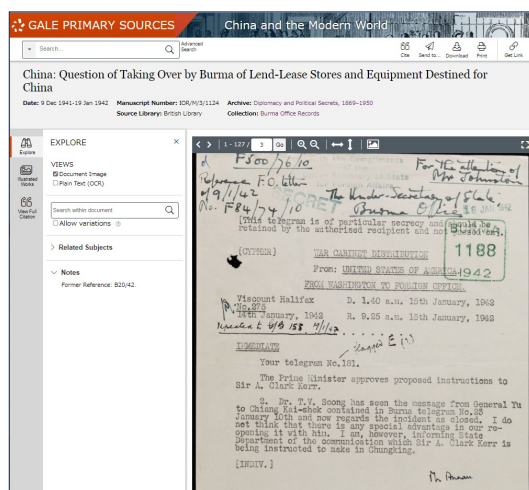


1年ほどの滞在期間中、ダライ・ラマに謁見しました。それ以前には、河口にチベット語を教え親交を結んだインド人サラト・チャンドラ・ダスが、チベットで測量を行なうべくインド測量局に雇われ、測量術を習得し、チベット入りし、ラサでダライ・ラマに謁見しています。チャンドラ・ダスの他にも、数千キロを踏破し正確な測量を行なったナイン・シンとキシエン・シン、ツアンポー峡谷を探検したキントゥプら、インド測量部に雇われた伝説的なパンディットにより、チベットはその地勢が明らかにされました。

ビルマ・雲南

雲南では、1850年代に回族が清朝に対し反乱を起こし、独立を宣言しましたが、清朝に鎮圧されました。北東部で雲南に隣接するビルマは、第一次・第二次英緬戦争を経て半分近い国土がイギリスに併合されました。ビルマを支配下に収めつつあったイギリスは、通商路確保のために雲南に関心を示し、インドシナを植民地化しつつあったフランスも雲南への進出を目論み、雲南は俄かに列強の目が注がれる国際政治の舞台となりました。このような状況の中で1875年、ビルマと雲南間の通商路確保のための現地調査を行っていた北京イギリス公使館のレイモンド・マーガリーが中国人に殺害される事件が発生しました。イギリスはこの事件を最大限に利用し、事件後締結された芝罘条約で、国境地帯での通商権益の獲得に向けて大きな一歩を踏み出します。イギリスはまた、第三次英緬戦争を経てビルマ全土を併合し、英領インド帝国の準州とします。

同時に、清朝との間で条約を締結し、ビルマと雲南の境界画定に向けて調査を行なうことを決定しました。国境をめぐる交渉と紛争は、ビルマと清朝崩壊後の中華民国の間でも引き継がれる一方で、1930年代後半に日中戦争が勃発すると、イギリス、アメリカは中国国民党を支援するためにビルマから雲南にかけて道路（援蒋ルート）を敷設します。ビルマでは1930年代以降独立運動が激しくなり、独立運動家の一部には日本と連携する動きもありました。ビルマ・中国間の国境をめぐる交渉と紛争は、ビルマ独立と中華人民共和国建国後の1960年に収束しました。



《データベースの概要》

- ◆ 原本所蔵機関: British Library
- ◆ 収録期間: 1869年から1950年まで
- ◆ 収録ページ数: 約226,000ページ
- ◆ 資料の概要: タイプ原稿、地図等
- ◆ 機能: ページ送り、画面拡大・縮小、全画面表示、輝度・コントラスト調整のビューワ機能の他、印刷、PDFファイルのダウンロード、OCRテキストのダウンロード、書誌自動生成、書誌情報のエクスポート、メール配信、ブックマーク、タグ付与の諸機能を実装しています。

膨大な大英図書館インド省文書より、英領インドおよびビルマの外交関係、辺境地域関係、軍事・防衛関係の文書クラスを精選して収録しております。

Section Title	Code	Time Period	Pages
Political and Secret Department Records	IOR:L/PS (7,10,11,12,18,20)	1869-1950	180,500+
Burma Office Records	IOR: M (3,4)	1933-1946	38,500+
Military Department Records	IOR: Mil (17)	1895-1944	7,000+

Diplomacy and Political Secrets 1869-1950の詳細は弊社まで



株式会社 極東書店

〒101-8672 東京都千代田区神田三崎町2-7-10 帝都三崎町ビル

TEL: 03-3265-7531 FAX: 03-3556-3761 <https://www.kyokuto-bk.co.jp> E-mail: info@kyokuto-bk.co.jp